KANSAI＊OSAKA

文化力

No.136
2021/AUTUMN・秋

関西から文化力
POWER OF CULTURE

巻頭対談
第23代文化庁長官
都倉俊一氏に聞く―コロナ禍を乗り越え、文化立国へ

トップインタビュー　企業と文化
藤原正隆氏（大阪ガス株式会社 代表取締役社長）

助成事業の紹介
日本万国博覧会記念基金（創設50年の歩み、2021年度助成金及び奨学金贈呈式ほか）
アーツサポート関西（第6回上方落語若手噺家グランプリ2020ほか）

KANSAI SPIRITS ―コロナ禍のアーティストたち
チェリスト 堀江牧生さん・ヴァイオリニスト 堀江恵太さん・ピアニスト 堀江詩葉さん

令和2年度 大阪文化祭賞 受賞者のご紹介

村瀬先生の「ぶらり関西歴史旅」大阪・梅田編

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会

表紙:左から堀江牧生さん、堀江恵太さん、堀江詩葉さん
（桜の庄兵衛／大阪府豊中市にて）

（文化庁提供）

コロナ禍を乗り越え、文化立国へ

コロナパンデミックでイベントや公演の中止・延期が恒常化し、アーティストをはじめ文化芸術関係者の生活不安が深刻さを増している。東京五輪によるインバウンド効果もなく、日本文化の世界発信も思うに任せない。文化の担い手たちがコロナ禍を乗り越え、日本が文化芸術活動で再び活力を取り戻すためには、どのような考えや施策が必要か。今年4月に文化庁長官に就任された都倉俊一氏に伺った。

『UFO』ができるまで

﨑元　本題に入る前に、作曲家としてのお話を少しお聞かせください。私は、都倉長官が作曲された歌を初めて聴いたのは高校1年生のときでした。中山千夏さんの『あなたの心に』（1969年）です。大好きでよく歌っていました。長官は、どのようなきっかけで作曲家の道へ進まれたのですか。

都倉　私は高校3年生のときにヨーロッパから帰国し、その当時から音楽活動に携わりたいと思っていました。大学生の頃には森山良子さんの『この広い野原いっぱい』（1967年）といったフォークソングが流行し、キャンパスポップスという言葉が出てきましたが、そうしたトレンドの中で学生生活を送りました。また、当時はベトナム戦争（1955～1975年）の真っ只中

で、アメリカを中心に反戦運動が高まり、ジョーン・バエズやピーター・ポール&マリー、ボブ・ディランなどの、いわゆる反戦フォークが日本の若者たちにも影響を与えました。日本は高度経済成長期にあって音楽産業が勃興し、レコード会社が雨後の筍のように出てきましたが、ソフトが足らず、楽器メーカー主催の作曲コンクールなどが開催され、多くの若者が応募して音楽レベルも向上していきました。私もその中に身を置いていて、自然と作曲の道に進んでいったという感じです。

都倉氏は、小学校・高校時代を過ごしたドイツで基本的な音楽教育を受ける。学習院大学在学中に作曲家としてデビューした後、アメリカ・イギリスで作曲法、指揮法、映像音楽を学び、海外各国でも音楽活動を行う。（オフィシャルブログより）

﨑元　中山千夏さんとはどういうご縁があったのですか。

都倉　千夏さんは大阪出身で、すでに子役時代から舞台に立っていてとても有名でした。私とは同い年で、彼女が歌手デビューするにあたり、ある人から紹介を受けました。『あなたの心に』は彼女の作詞で、「曲をつけてくれない?」っていう感じで頼まれたんです。彼女は素晴らしい声をしており、詩も書くし、絵も描くし、才女ですね。

﨑元　阿久悠さんとのコンビでもヒット曲を連発されました。

都倉　新人のころは作詞家の先生から歌詞を押し頂いて、「ありがとうございます。一生懸命曲をつけさせていただきます」という感じで仕事をすることがよくありました。しかし長年やっているうちに、それとは違う方法で曲作りをしてみたくなりました。先に曲を作り、それに歌詞をはめてもらう音楽主導のやり方です。阿久さんは「はめ込み名人」といわれるほどの達人で、私が書いた音符に一つひとつ言葉をはめていきます。そうすると曲の構成によって詞の形が変わりますから、伝統的な1番、2番、3番といった順の歌詞にならないこともよくありました。こうして阿久さんと二人で、さまざまな新しい試みをしました。

﨑元　聞くところによると、タイトルだけを聞いてメロディーを作られたこともおありだったとか。

都倉　曲作りの打ち合わせで、阿久さんが「この前アメリカに行ったとき、スター・ウォーズっていう映画を観た。いまアメリカは宇宙ブームなんだよ」というので、「じゃあそういうテーマで曲を書きましょうか」と応じました。すると翌週ぐらいにFAXで「UFO」というタイトルが送られてきたんです。UFOは「ユー・エフ・オー」と読むのか「ユー・フォー」と読むのかどちらなのかと訊ねると、「それは任せるよ」と。それで2音のユー・フォーにして『UFO』（1977年／ピンクレディー）の曲を作りました。時間がなくて効率的に仕事をしなければならないこともあって、まずタイトルをもらって私がピアノでメロディーを作り、阿久さんが詞をつけていく手法が多かったですね。

都倉氏は1970年代から作曲活動を行い、日本レコード大賞や日本歌謡大賞など日本の主要な音楽賞のほとんどを受賞。ヒット曲は1,100曲を超え、レコード売上枚数は6千万枚を超える。（前同）

代表曲

山本リンダ『どうにもとまらない』
（1972年・日本レコード大賞作曲賞）

山口百恵『ひと夏の経験』
（1974年・日本レコード大賞大衆賞）

狩人『あずさ2号』
（1977年・日本レコード大賞新人賞）

ピンクレディー『UFO』
（1978年・日本レコード大賞）

ARTS for the future!

﨑元　さて、新型コロナウイルスの感染拡大によって、イベントや公演活動が自粛を余儀なくされ、文化の担い手たちが大きな打撃を受けています。そうした渦中の今年4月に文化庁長官に就任された都倉長官は、コロナ禍での文化行政についてどのようにお考えでしょうか。

都倉　私が長官になる前の2020年、コンサートなどが次々中止になって音楽業界は火の車。エンターテインメント産業は壊滅的な打撃を受けました。2021年になれば多少収まるかなと思っていたら、火の手はさらに広がっていきました。私の第一の仕事は、その火を消すことです。

コロナ禍においてはとくにフリーランスが非常に苦労していて、才能のあるアーティストや若者が路頭に迷うような状況があります。これをなんとかして助けなくてはなりません。そこで文化庁は、令和2年度の第3次補正予算に250億円を計上し、音楽ライブ・演劇などの公演開催や中止に伴う費用を支援する事業「ARTS for the future!」に取り組んでいます。文化庁の予算は年間1,100億円に満たないのですが、そうした補正予算を含めると2,700億円に達しました。これは非常に画期的なことですが、補助金がアーティストに届くまでの事務手続きが煩雑であるため、これを簡素化するなどして一日も早くお届けしたいと考えています。

﨑元　是非そう願いたいものです。

都倉　アメリカにはエンターテインメント産業に従事する人たちが加入するユニオンがあって、そこに一括して送金することで、ソーシャル・セキュリティー・ナンバー（社会保障番号）で紐付けされた個人口座へと速やかに分配されます。日本の文化芸術産業にはそうした管理組織や仕組みがありません。新型

聞き手　**﨑元利樹**
関西・大阪21世紀協会 理事長

都倉長官（文化庁にて/うしろに飾ってあるのは日本レコード大賞のトロフィーなど）

コロナ対策は災害時対応と同じようなものですから、これを機にそうした効率的な分配方法を皆で研究し、新しいシステムを作ることも必要です。また、文化芸術は国民すべてのものですから、役所の縦割り的な発想ではなく、省庁の枠を越えた独自の予算を組むという考え方も必要だと思います。

ARTS for the future!…コロナ禍を乗り越えるための補助金事業。チケット収入を前提とした文化芸術活動に対し、開催の経費や、緊急事態宣言発出などで開催できなくなった場合の経費を支援し、それがフリーランスやアーティスト個人に届くことを意図している。

国策としての支援

﨑元　都倉長官は、ご就任にあたって「日本を世界一の文化立国にする」、「文化芸術で国家予算を豊かにするくらいの気持ちがなければならない」とお話しされました。

都倉　よく映画や音楽で「海外進出を成功させた」といわれることがありますね。それは興行としての大成功、つまり大きな売り上げを得たことで「成功」と認識されているのです。その意味で、文化芸術産業を振興しようとすれば、アーティストの活動に対して補助金を出して終わりではなく、投資するのだという気持ちがなければなりません。アーティストが育って成功し、劇場やホールを満員にしてお金を稼いでくれれば、必ず国庫に戻ってきます。そういう発想で文化施策を考えるべきだし、そのほうが業界にも国の意図が伝わりやすい。また、補助金は必要ですが、それだけでアーティストは育ちません。表現の場が与えられ、そこでパフォーマンスを披露し、観客の反響を得てこそ生き生きと輝くのです。

﨑元　日本の文化芸術を産業の視点で見ると、最近は日本のJ-POP市場で韓国のK-POPが幅を効かせ、日本発祥のアニメが中国でマーケットを拡大しています。そうした国境を越えた競合に、日本はどのように立ち向かっていくべきでしょうか。

都倉　それは非常に重要な問題で、文化庁としても看過できません。今から20年ほど前、K-POPの市場規模は日本のポップミュージック市場の10分の1程度でした。当時、BoAや東方神起といった素晴らしいK-POPアーティストが日本デビューしましたが、市場規模はまだまだ小さかったんです。そこで、世界市場への進出を狙っていた韓国は、まずは日本に追いつき追い越すことを目標に一生懸命努力しました。やがて東方神起が日本レコード大賞（優秀作品賞／2008年）を獲ったことで、K-POP人気に火がつきました。そして今、K-POPは日本の市場規模をついに追い越し、世界へとマーケットを広げています。

これには理由があり、韓国は国策として取り組んでいるのです。かつて金大中大統領は自らを「文化大統領」と称し、韓国を文化国家にすると公言していました。それが実現しはじめたのは李明博大統領の時代で、国家予算を投入してエンターテインメント産業を育てたのです。その一つがK-POPでした。今から3～4年前にその施策と韓国業界の努力が実を結び、K-POPは世界進出に成功しました。私は、韓国の音楽産業が日本市場を追い越すとは夢にも思いませんでした。日本はこうした韓国の工夫や努力に学ぶべきだと思います。

﨑元　先ほどの「ARTS for the future!」は国の施策ですが、私どもは企業や市民の寄付によってアーティストの活動を支援し、関西の文化芸術を振興する「アーツサポート関西」事業に取り組んでいます。アーティストの活動の場が東京に偏りがちな中にあって、関西で活躍する若手を支援していこうというものです。日本ではまだまだ寄付文化が根付いていませんが、寄付したお金は税の優遇措置が受けられるようにするなど、なんとかしてこの取り組みを広げていこうと頑張っています。

都倉　素晴らしい取り組みですね。寄付文化を広げるなら、ま

ずは税制を考えなければだめだと思います。先ほど日本の文化予算の話をしましたが、世界に目を向ければ、政府予算に占める文化予算の割合は韓国が最も多く、次いでフランス、ドイツと続きます。日本はそうした国よりずっと低い。とはいえこの尺度だけで文化振興の程度は測れません。例えばアメリカでは国の文化予算はほとんどなく、民間の寄付で文化振興を行っています。「国の代わりに民間がアーティストを育てているのだから、税金は免除してくれ」ということで、寄付金は税対象から控除される制度があるんです。韓国とは逆の考え方です。

バーチャル日本博

﨑元　コロナ禍にあっては、コンサートや演劇などを無観客で開催したり、美術館や博物館でもオンラインで作品を紹介したりしています。こうした新しい取り組みについてはどのようにお考えでしょうか。

都倉　オーケストラや学校の吹奏楽などは全員揃って練習や公演ができなくなり、オンライン上で合奏する工夫をされていますね。出演者がインターネットを介して顔を合わせる演劇公演もあります。この1年間でやり方がどんどん工夫され、浸透してきました。インターネットはポストコロナの発信ツールとして、ますます重視されるでしょう。文化庁でも今年8月から、「バーチャル日本博」という企画をスタートしました。東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機にはじまった「日本博」のインターネット版です。

日本博は「日本人と自然」をテーマに、日本のさまざまな有形・無形の文化財などを国内外に発信するもので、2019年より全国各地で展開しています。しかし、新型コロナの影響で現地に出向いて鑑賞できず、オリンピックで期待していた4,000万人のインバウンドもなくなりました。そこで文化庁は、なんとかして日本博をご覧いただきたいという思いから、インターネットを使ったプラットフォームを作りました。バーチャルな博覧会場の中に美術や工芸、伝統芸能、建築、自然、ファッションなどのブースを配置し、そこに入って実際の映像や音声を楽しむことができます。ぜひアクセスしてご覧ください。

﨑元理事長（協会にて）

日本博…日本人の自然観から生まれた豊かで多彩な「日本の美」を国内外に発信し、次世代に伝える取り組み。人々の感動を呼び起こし、多様性の尊重や普遍性の共有、平和の希求によって未来の創生につなぐのが目的。現在、文化庁や全国の文化施設、民間団体などの総力を結集して全国各地で展開中。昨年、関西・大阪21世紀協会はシンポジウム「古代首都なにわと八十島祭」などで参加した。

「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」VR

日本博特別企画「アイヌ文化フェスティバル」

「冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
葛飾北斎 / 画 モーダル

日本博公式ウェブサイト
（https://japanculturalexpo.bunka.go.jp/）

歌がほしい

﨑元　都倉長官は今年7月に開催されたG20文化大臣会合（イタリア・ローマ）で、スピーチをされた際、「文化芸術へのアクセス確保は基本的人権であり、SDGsの18番目に文化芸術を加えるべき」と呼びかけられました。これは私どもも常日頃から感じていることで、世界に向けた長官のご発言に、とても心強い思いをいたしました。

都倉　文化芸術がいかに大切なものであるか、東日本大震災の際に強く感じました。大地震の発生から2か月後ぐらいに、私は歌手や演奏家などのボランティアを集め、津波で大きな被害を受けた宮城県山元町に入りました。建物はほとんど流され、小さな集会所に避難した人々が身を寄せ合っていました。町長に話を聞くと、電気が遮断されて暖を取れなかったのが一番辛かったとのことでしたが、そこで私は、避難されている年配の方に今何がほしいかと尋ねたところ、「歌がほしい」と返ってきました。現地にはカラオケ会社の役員の方もボランティアに来てくださっていて、その話を聞いてすぐさま集会所に通信カラオケマシンを寄付し、無料で使えるよう手配してくれました。G20ではそこまでの話はできませんでしたが、私は、人間は心が満たされることで生きる力が湧くのだということを、この経験を通して身に沁みて感じました。

かつて阿久悠さんと、「みんなで音楽を聴けば、感動が空気

を伝わって広がり、集団のパワーになる。イヤホンで感動の共有は得られない」という話をよくしていました。校歌があり、社歌があり、国歌があるのはそのためです。みんなで声を合わせると気分が高揚するように、音楽は心の栄養になるんです。災害ともいえるコロナパンデミックは、私たちにそうした教訓を与えているように思います。

文化立国へ向けて

﨑元　文化庁は京都移転に向けて準備を進めておられますが、この意義についてどのようにお考えでしょうか。

都倉　政府は地方創生の一環として、施策拠点の地方移転を進めています。G20文化大臣会合は、2000年前に建てられたコロッセウムで行われました。私が、そうした文化遺産を今に伝えるローマを讃えると、「イタリアはローマだけではなく国全体が文化遺産だ」と胸を張っていわれました。たしかにヨーロッパには、2000年以上の歴史・文化がある都市に現在も人が住み、歴史遺産を活用している国がいくつもあります。翻って日本のどこにそういう都市があるでしょうか。それは東京ではなく、京都などの地方都市です。その意味で、京都に日本の文化施策の拠点をおくことは、ロンドンやパリ、ローマなどのように、文化立国としての日本を世界に発信する大きな意義があると思います。

﨑元　京都はもちろんですが、大阪や奈良をはじめ地方都市にも長い歴史と多様な文化があり、それを活用・発信して活性化の起爆剤にしているところも多くあります。こうした活動をもっと推進するためには、どうすればいいと思われますか。

都倉　日本には国宝や重要文化財をはじめ、伝統的な芸能・工芸技術の保持者（人間国宝）や郷土芸能など、有形・無形の文化財が数多くあります。例えば飛騨地方には、400～500年前から伝わる干物を使った郷土料理があります。海を持たない地方ならではの知恵で生まれた食文化です。また、三味線の皮を貼る糊や和紙の原料のように、需要が減ってそれを作る農家や後継者がいなくなってしまうと、文化財を修復したり伝統技術を受け継いだりできなくなります。そこで、それらを文化財としてどんどん登録するようにしました。国が認めることで文化が守られていくのです。文化庁は、そうした埋もれた文化の掘り起こしに力を注いでいるところです。

G20文化大臣会合
（2021年7月29～30日／ローマ・コロッセウム）
（文化庁提供）

健康状態を自動で診断する
「アンチエイジング・ライド」

2025年関西・大阪万国博覧会での大阪府市パビリオン
（いずれもイメージ図／大阪府 大阪市提供）

﨑元　それは大事なことですね。地方の文化を守り振興することで、ひいては日本の国力を高めることにもつながるように思います。

都倉　おっしゃる通りです。日本にはそうしたリソース（文化資源）が豊富にあるのですから、それを活用することで、世界から憧れられる文化立国の道を目指していくべきでしょう。ただ残念なのは、日本人自身がそうした文化を知らな過ぎることです。ですから、これからは子どもたちへの情操教育、つまり日本の多様な文化や長い歴史と自然の中で育んできた日本人独特の感性を伝えていくことが、とても大事になるでしょう。それは文化立国としての日本の将来に関わる課題だと思います。

　また、文化立国の象徴といえるのが、2025年の大阪・関西万博です。日本の成熟した文化を世界に示す万博を大阪・関西で行うことはとても意義のあることだと思っています。文化庁長官として、私の次なる目標はこの万博だと考えています。日本博の会期は2022年までですが、次は大阪・関西万博を中心とした日本博へと広げていかなくてはなりません。その意味でも、2025年は日本にとって大切な年になるでしょう。

﨑元　どうもありがとうございました。

（2021年8月17日・オンラインにて実施）

都倉俊一氏

1948年東京都出身。4歳よりバイオリンを始め、小学校、高校時代をドイツで過ごす。1971年学習院大学法学部卒業。1970年代から作曲活動をはじめ、『ペッパー警部』『五番街のマリーヘ』など数多くのヒット曲を生み出す。80年代からは映画や舞台の音楽も手がけ、アメリカやイギリスでも活動。一般社団法人日本音楽著作権協会会長、文化審議会委員などを経て2021年4月より現職。2018年11月文化功労者。

制作番組のご案内（共同制作：株式会社オプテージ）

村瀬先生の『ぶらり関西歴史旅』

大阪・梅田編

江戸時代の古地図を手に、大阪の昔と今を比べて学ぶ街歩き番組『ぶらり関西歴史旅』。その最新版＜大阪・梅田編＞では、梅田駅周辺から北新地を訪ねます。170年前の梅田が、高層ビルが林立する大阪の中心地になるまでにどんなことがあったのか。「なにわの地理博士」こと大手予備校・東進ハイスクールの人気講師・村瀬哲史さんの案内で、フリーアナウンサーの市川いずみさんと一緒に、数々の意外な事実をご紹介します。

どうして「梅田」になった？…古地図A

現在の梅田一帯は、江戸時代まで地図には何も記されていない湿地帯でした。そこを埋め立てたことから「埋田（うめた）」と呼ばれ、それが転じて「梅田」という地名になったそうです。

かつては「墓地」だった！…古地図B

梅田貨物駅の跡地にできたグランフロント大阪（うめきた）あたりを江戸時代の地図で見ると、「梅田墓」と記載。当地の造成にあたっては、江戸時代後期から明治初期にかけての1500体を超える人骨が発見されました。

グランフロント大阪にて

発見された人骨（大阪市HPより）

住民が大反対した「大阪駅」…古地図C D

初代の大阪駅は、明治7（1874）年に現在の梅三小路（うめさんこうじ）（大阪中央郵便局旧局舎の隣）に開業。もともとは賑やかな堂島あたりに建設予定でしたが、蒸気機関車による煙害や舞い散る火の粉（へんぴ）が火事の原因になるとして住民の反対運動が起き、辺鄙で民家のない梅田の地が選ばれました。

木造２階建ての初代大阪駅

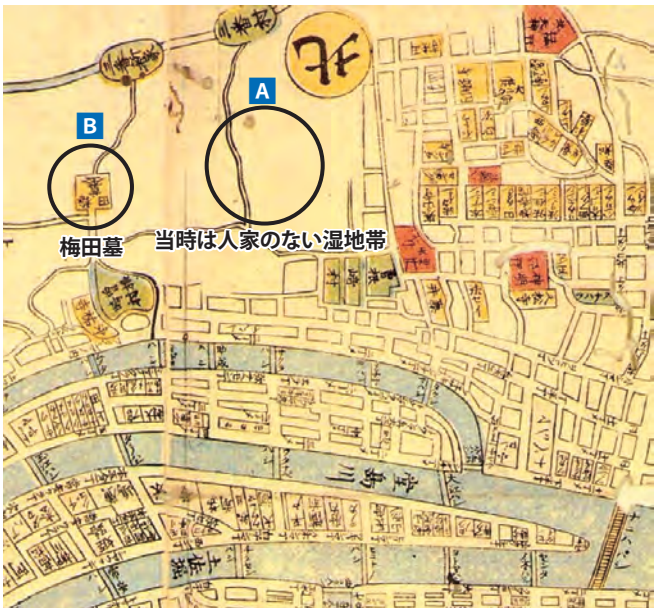
現在のJR大阪駅

「出入橋」の名物といえば…古地図E

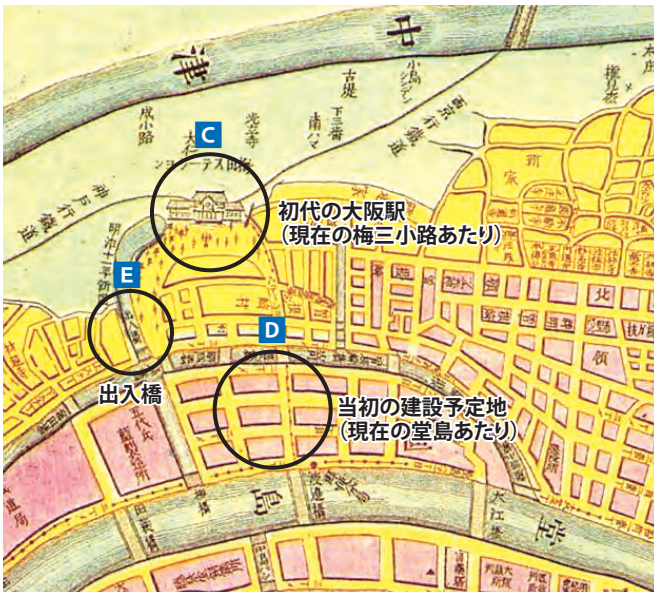
明治14（1881）年の地図には、大阪駅まで船で荷物を運ぶための水路が描かれています。昭和20年代（1945～54年）まで、ここでは船の出入りが多く「出入橋（でいりばし）」と呼ばれていました。のちに水路は埋め立てられましたが、橋は現在も残されています。そのたもとにある創業約80年の「出入橋きんつば屋」の名物「きんつば」は、昔、大阪駅まで船で荷物を運んできた労働者の「おやつ」でした。

現在の出入橋

きんつば（出入橋きんつば屋）



1845年 弘化改正大坂細見図（大阪市立図書館デジタルアーカイブより:部分）



1881年 新選大阪市中細見全図（大阪市立図書館デジタルアーカイブより:部分）

番組でチェック！

- ■「茶屋町」「きんつば」の名前の由来は？
- ■北新地にあった「曽根崎川」ってどんな川？
- ■テーマは宇宙船!? 昭和22年開業「マヅラ喫茶店」

村瀬哲史（むらせ あきふみ）
東進ハイスクール 東進衛星予備校　地理講師
「楽しく学ぶ地理」をモットーとした授業で学生に大好評。
一度観ると忘れられない！そんなキャラクターでテレビ・ラジオでも活躍中！

右記のQRコードを読み込むか、当協会ホームページにアクセスしてご覧ください。
（http://www.osaka21.or.jp/movie/index.html）

大阪ガス株式会社　代表取締役社長

藤原正隆氏

お客さまや社会の「お役に立つ」ことが原点

エネルギーの供給や暮らし・ビジネスを支える多様な商品・サービスなどの提供を通じて、顧客や社会に役立つことを目指すDaigasグループ。今回のコロナ禍では、これまでのさまざまな社会貢献活動に加え、新たな取り組みにチャレンジするほか、2025年大阪・関西万博に向けた新規の環境技術実証を検討している。多方面にわたる社会貢献活動や社会課題への取り組みの原点にある考え方や精神とは何か。今年、大阪ガス社長に就任された藤原正隆氏に、活動への思いについて伺った。

「お役立ち」の精神を社会貢献活動にも

昨年来続く新型コロナウイルス感染症の蔓延は、今も日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。その中で私どもDaigasグループは、社会インフラ事業の一端を担う企業グループとして、エネルギーの安定供給と保安確保等に懸命に取り組んでいます。私自身、今年1月に社長に就任しましたが、改めてその責任の重さを認識する毎日です。

当社グループは1905（明治38）年、大阪市内で都市ガス供給を開始して以来、今年で創業116年を迎えます。その間、ガス燈を灯す照明用から家庭用や業務用・産業用の熱源へと、さらには発電用へとその用途を広げ、ガスや電気などのエネルギーの供給、暮らしやビジネスを支える多様な商品・サービス・ソリューションの提供を通じて、お客さまや社会のお役に立つ企業グループとしての発展を求めてきました。こうした当社グループの「お役立ち」の理念・スピリットは、事業活動はもとより、地域でのボランティア活動や文化・スポーツ振興などの社会貢献活動にも受け継がれています。

40周年を迎えた“小さな灯”運動

1981年に始まった“小さな灯”運動は社員やOBが自発的に参加するボランティア活動で、今年、40周年を迎えました。児童福祉

ともしびこどもクッキング

御堂筋ふれあいバザー

施設の子どもたちの将来の自立を支援する「ともしびこどもクッキング」や、障がいのある方々の手づくり商品の展示販売を行う「御堂筋ふれあいバザー」など、社会のなかで支援を必要とされている方々を応援する活動を続けています。一つひとつの活動は小さくとも、それらを積み重ね、継続することが大切だと考えています。

また、コロナ禍での新しいかたちの社会貢献活動にも取り組んでいます。自治体やNPO法人、社会起業家と連携・協働して社会課題の解決を図るソーシャルデザイン活動の一環として、コロナの影響で活動に支障をきたしているNPO法人などを応援するオンラインセミナー「Reスタート!」を2020年に開催しました。他にも、当社従業員が発起人・世話人となり、働く世代のがん経験者が自らの体験を語るプロジェクト「ダカラコソクリエイト」では、コロナ禍での不安との向き合い方や自粛生活の工夫などについて、SNSやオンラインイベントを通じて発信しました。加えて、最初の緊急事態宣言が発令された2020年5月には、感染防止に必要な物資を当社グループ従業員から広く募集し、マスク、消毒液など3,000点を児童養護施設、福祉作業所、NPO法人に寄贈しました。

Re スタート!

地域の文化・スポーツ振興のお手伝い

「扇町ミュージアムスクエア(OMS)」は当社が1985年に開設した複合文化施設で、当時、関西では珍しかった小劇場を備え、2003年までの18年間、演劇文化の創造・発信拠点としてご愛顧いただきました。その10周年記念事業として、関西の新しい劇作家の発掘や活躍の場づくりを目指して1994年に創設されたのが「OMS戯曲賞」です。同賞は現在も存続して、毎年50～60件の応募をいただいており、今後も微力ながら関西の演劇文化振興のお役に立ちたいと考えています。

OMS 戯曲賞

また、硬式野球部や陸上競技部の活動を通じて、地域のスポーツ振興のお手伝いをさせていただいています。硬式野球部では、地元での野球教室の開催や清掃活動のほか、福祉作業所に委託して修繕してもらった硬式ボールを高校の野球部に寄贈する活動「ハートボールプロジェクト」を行っています。これまでに寄贈したボールは2,000球を超えました。

ハートボールプロジェクト

2025年 大阪・関西万博に向けて

2025年、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪湾の夢洲で大阪・関西万博が開催されます。万博は世界や日本はもとより、関西の成長・発展につながる国際イベントであり、当社グループも地元企業グループとして万博の成功に向けて精一杯貢献したいと考えています。万博会場は「未来社会の実験場」と位置付けられていますので、当社グループでは、カーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素(CO_2)を用いて都市ガスの原料をつくる「メタネーション」の実証を検討しています。

ウイズコロナ、アフターコロナの時代においても、お客さまや社会と向き合い、そのお役に立つことが当社グループの原点であることに変わりはありません。「時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニー」へと進化し、持続的な成長の実現を目指す中で、社会課題の解決や地域の社会貢献活動にも積極的に取り組んでまいります。

藤原正隆(ふじわら まさたか)氏
1958年生まれ、大阪府出身。1982年京都大学工学部石油化学科を卒業後、大阪ガス入社。エネルギー事業部エネルギー開発部長、大阪ガスケミカル株式会社代表取締役社長、常務執行役員、代表取締役副社長執行役員などを経て2021年1月より現職。

大阪ガス株式会社
本社：大阪市中央区平野町4丁目1番2号、創業1905(明治38)年10月19日、資本金 1,321億円、従業員数(個別)3,203人

プラス思考で新たな活動に意欲

昨年来のコロナパンデミックによる公演の中止や延期、観客制限で、クラシック音楽界では、2020年の事業収入が前年に比べ半減したことがわかった※。大阪府吹田市出身で同市を拠点に活動する堀江牧生さん、恵太さん、詩葉さんの三きょうだいもそうしたコロナ禍の直撃を受けてきたが、ファンや公演主催者などの励ましを支えに、いま新たな活動に取り組んでいる――。

※文化芸術推進フォーラム調査報告書〈ダイジェスト版〉2021年6月9日

1990年生まれ。スロバキア国際チェロフェスティバル第1位ほか受賞多数。大阪フィルハーモニー交響楽団はじめ関西のオーケストラとも共演。

1992年生まれ。第6回横浜国際音楽コンクール大学生弦楽器部門第1位ほか受賞多数。ジョージア国立トビリシ音楽大学オーケストラはじめ国内外のオーケストラとも共演。

1997年生まれ。2015年全ロシア若い音楽家のためのピアノコンクール『メルズリャコフカ』第1位ほか受賞多数。2019年5月にロシア国立ウリャノフスク交響楽団と共演。

コロナ禍で心境が変化

「ホールを満席にしなくてはならないというストレスから解放されました」。牧生さんはそういって苦笑するが、それは音楽家が日々抱く集客への不安を代弁しているようでもあった。「お客様にもゆったりした空間でお聴きいただけるので、座席数を制限してよかった。その分、チケット料金を少し割増ししたこともありましたが、お客様にはご理解いただき感謝しています」という。

牧生さんは、東京音楽大学を経てモスクワ音楽院（ロシア）、ウィーン国立音楽大学（オーストリア）を卒業後、ロシア国立ボリショイ劇場管弦楽団に1年間所属。2019年に帰国後、吹田メイシアターで「堀江牧生のチェロの朝」を毎月開催し、平日の午前中にもかかわらず平均70人以上の観客で好評を博した。昨年10月から今年3月にかけては、静岡県文化財団の助成を受けてYouTubeによるクラシック音楽番組『どぅるーじば』（ロシア語で「友情」）を配信。司会進行役を務め、モスクワ音楽院の同期との演奏や留学時代の思い出など、興味深い話題を発信している。「演奏家が自ら発信の場を持ち、ステージで伝えきれないことを伝えられるのはいいこと。演奏家の素顔を知りたいというニーズにお応えできるのも配信ならでは」とほほえむ。

今年は、自身の企画・プロデュースでCDデビューも果たす。「本音をいえば、（コロナ禍で）ついにそこまでやることがなくなってきたかという感じ」と話す牧生さん。演奏をライブで聴いてもらいたい牧生さんは、何度もとり直して、良い演奏だけをCDに閉じ込めるということに、長らく気が向かなかった。しかし、コロナ禍で心境が変化。「クラシックの演奏会に行くことが贅沢になってしまった今、家で手軽に聴ける状況を作りたかったのと、クラシックが日々の生活に浸透するためにはCD化も必要だと思いはじめました」という。なにより共演者である『どぅるーじば』のピアニストたちが喜んで参加するといってくれたことが嬉しく、CD制作の決心がついた。牧生さんは今年6月、『バッハ無伴奏チェロ組曲・全曲演奏会』（豊中市立文化芸術センター）を開催した。2時間以上にわたる長丁場の独演は、それ以上に体力や集中力、準備力が必要なCD制作に向けて良い経験になったという。

室内楽は人生と同じ

恵太さんも昨年来、出演予定のコンサートの多くが中止を余儀なくされてきた。とりわけ自主企画の演奏会では、出演を依頼していた仲間に対して申し訳ない気持ちでいっぱいだったが、「こんな時期だから仕方ないよ」という一言で気持ちは救われた。コロナ禍で勉強する時間を与えられたと気持ちを切り替え、出演予定がないときは基礎練習をしたり、楽譜や文献を読み込んだりと、「コロナだからといって暇な時間はない」と前を向く。また、昨年はコロナ禍で海外の演奏家を呼べなくなったため、NHK（FMラジオ）主催による牧生さんとのデュオ・リサイタル（NHK大阪ホール）のような仕事も舞い込んだ。

ヴァイオリンをはじめたのは3歳のとき。牧生さんを見て

自分もやりたくなったからだが、兄と同じ楽器だと上達を争って喧嘩してはいけないという両親の配慮からヴァイオリンが渡された。小学6年生から高校3年生まで、指揮者の佐渡裕氏率いる「スーパーキッズ・オーケストラ」（兵庫県立芸術文化センター）に参加。全国からオーディションを通過した腕利きの仲間と合奏する楽しさに目覚め、佐渡氏が全力で音楽に向かっている姿に強く惹かれた。「全力で向かうとは、人生をそれに捧げるということ。自分も音楽家として、“音楽に仕える”生き方をしたいと思うようになりました」と振り返る。

京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻を首席で卒業後、ウィーン国立音楽大学修士課程を最優秀で修了。群馬交響楽団やシンフォニア・アルシスOSAKAにコンサートマスターとして客演した経験を持つ。とりわけ自身が率いる弦楽四重奏「ケイタ・リング・カルテット」や、兄妹とのピアノ三重奏「堀江トリオ」など室内楽への思いは熱い。「室内楽は人生と同じだと思います。自分の考えをしっかり持って伝えつつ、相手のパーソナリティーを尊重し、その上でより良いものを一緒に創っていく。演奏家としても一人の人間としても、そうありたいと思っています」という。小学6年生から大学時代までギオルギ・バブアゼ氏（関西フィルハーモニー管弦楽団・コンサートマスター）に師事してきたこともあり、そうした師匠たちへの憧れから、コンサートマスターとしてのやりがいも感じている。

憧れの先生に直談判

モスクワ音楽院に在学中の詩葉さんは、ロシアのコロナ禍を避けて昨年4月に帰国。その後は戻ることができず、日本にいながらオンライン授業を受けることになった。当初は対面授業が再開すれば直ちに学校に戻るつもりだったため、出演依頼があっても予定が組めず断らざるをえなかった。

先が見えない中、少しでも多くの人に自分の演奏を聴いてもらおうと始めたのが、You Tubeによる動画配信だった。牧生さんとのデュオでは、クラシックだけでなくポップスや映画音楽など、コンサートホールでは見せないリラックスした雰囲気での演奏やトークが好評を得ている。「大阪以外の人にも私の演奏を聴いていただけるし、ホールにお越しいただきにくい人にも、お家で楽しんでいただけるのはすごくいい」と、兄たちと同じくコロナ禍のつらさをプラス思考で乗り切っている。

詩葉さんは4歳でピアノを始めた。学校教師になりたいと思ったこともあったが、中学生になって音楽の奥深さや自由に表現できることがだんだんわかるようになり、のめり込んだ。いずれ留学するなら早い方がいいとの助言を得て、中学卒業後はモスクワ音楽院附属アカデミー（日本の音大附属高校に相当）へ。ロシア語は分からなかったが、学生寮のルームメイトから「ロシア語字幕のついた映画を見るといい」と教えられ、日本のジブリアニメやハリーポッターを毎晩のように観たり、ルームメイトの会話を注意深く聞いて叩き込んだりした。なにより心強かったのは、モスクワ音楽院に在学中の牧生さんが、ピアノレッスンの際に通訳として付き添ってくれたこと。「レッスンを録音しておいて、後で先生のロシア語と兄の日本語を照らし合わせて復習するんです。とても正確な通訳でした」と、牧生さんに感謝の眼差しを向ける。

モスクワ音楽院に進学する頃には通訳もいらなくなり、持ち前の度胸で、憧れのピアニストであり教育者としても名高いエリソ・ヴィルセラーゼ氏に直談判して指導を願い出た。「とても厳しい先生。新しい楽譜を渡されると、3日後には完全に暗譜して弾けないと怒鳴られます。“音楽をするために来ているんでしょ！”って」と、思わず背筋を伸ばす詩葉さん。1日8時間以上練習室にこもることも普通で、兄たち同様、演奏家としての真摯な姿勢はこうして培われた。

「堀江トリオ」として

牧生さんが6歳のときに始めた「堀江ファミリーコンサート」は、父で朝日放送（ABC）アナウンサーの堀江政生さんが司会を務め、今年で第26回を迎えた。恵太さん、詩葉さんが加わるようになってからは「堀江トリオ」として出演。昨年8月にはザ・シンフォニーホール（大阪市北区）の主催で無料ライブ配信が行われ、現在も配信中で、多くの人が視聴している。また、クラシックの解説や演奏家の日常などを紹介する「堀江トリオのYouTubeラジオ～土曜の夜はおうちでクラシック」も好評で、今年5月で１周年（第50回）を迎えた。同番組は毎回ジョークの飛び交う賑やかな掛け合いで進行するが、生演奏や過去の演奏動画では表情が一変。力感あふれる演奏で、聴く人の心を惹きつける。

「私たちのモチベーションは、“上手くなりたい”に尽きます。良い音を出し、良い演奏をするために練習したり、いろんなことを試したりするのですが、そのゴールは見えないし、一生費やしてもたどり着けません。だから私は生まれ変わっても、またチェロを弾いていると思います」。牧生さんの言葉に、時代の禍福にぶれないアーティストの本質を感じた。

（ライター 三上祥弘）

左から堀江恵太さん、詩葉さん、牧生さん。
2021年6月8日／桜の庄兵衛（大阪府豊中市）にて

2020（令和2）年度

大阪文化祭賞

大阪府・大阪市・関西･大阪21世紀協会主催

文楽･竹本錣太夫さんら優れた成果を上げた公演に賞を贈呈

関西･大阪21世紀協会と大阪府･大阪市は、芸術文化活動の奨励と普及、大阪の文化振興の機運醸成を目的に、大阪府内で上演され、優れた成果をあげた公演に対して「大阪文化祭賞」を贈呈しています。この賞は1963年に創設され、今回で57回目となりました。

関西の著名な芸術家･文化人･ジャーナリストが審査員を務め、2020年に大阪府内で開催された公演の中から、第1部門「伝統芸能･邦舞･邦楽」、第2部門「現代演劇･大衆芸能」、第3部門「洋舞･洋楽」について、独創性･企画･内容･技法などを総合的に選考し、各賞を決定しました。各賞には副賞として、大阪文化祭賞20万円、奨励賞5万円がそれぞれ贈られました。

なお、贈呈式は、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、開催されませんでした。

大阪文化祭賞　各受賞者の受賞理由

第１部門：伝統芸能･邦舞･邦楽

©国立文楽劇場

竹本錣太夫（たけもと しころだゆう）さん

「初春文楽公演『傾城反魂香（けいせいはんごんこう）』【土佐将監閑居の段（とさのしょうげんかんきょだん）】」の成果

2020年１月、戦前活躍した五代目竹本錣太夫の名跡を襲名。披露狂言では、実直な吃音の絵師･又平に錣太夫自身の誠実な人柄が相まって、観客を感動させました。人間国宝の豊竹咲太夫さんに続く世代として、文楽の芸の継承にも大きな成果をもたらすものといえます。

1969年四代竹本津太夫に入門、翌年朝日座で初舞台。1989年五代豊竹呂太夫の門下となる。文楽協会賞を2度、因協会奨励賞を5度受賞するほか受賞多数。

第２部門：現代演劇･大衆芸能

©クリス（500G Inc.）

©山田徳春（500G Inc.）

工藤俊作（くどう しゅんさく）さん

「プロジェクト KUTO-10（くとう てん）」の制作活動

「プロジェクトKUTO-10」は、1989年に自身が結成した演劇プロデュース集団です。その最大の魅力は、所属劇団の異なる演劇人たちが出会うこと。それによって化学反応が起き、シリアスな社会派作品からコメディまで上質な舞台が次々に生まれました。首都圏や他地域での公演も行い、大阪の若手演劇人の育成、大阪の演劇の魅力を広く発信する役割も果たしています。

1965年大阪生まれ。大阪芸術大学在学中に劇団大阪太陽族（現･劇団太陽族）に入団、17年間所属。2000年に第3回関西現代演劇俳優賞男優賞を受賞。

第３部門：洋舞･洋楽

堺シティオペラ

「第34回定期公演『アイーダ』」の舞台成果

タイトル･ロールの並河寿美さんが役柄の微妙な心情を丁寧に描き出すなど、歌手の演技がいずれも高水準であるうえ、衣装や照明、舞台装置など美術面も作品の内実に迫る深みがありました。地元市民を含む総勢150名の大合唱団が登場した「凱旋」の場面など、地方都市で制作･上演されたとは思えないほどの美しさと迫力があり、オペラが音楽と美術、テクストからなる総合芸術であることが改めて示されました。

1978年創設。2010年より堺シティオペラ一般社団法人として毎年定期公演を開催。イタリアやオーストリアでも公演。2015年大阪文化祭奨励賞など受賞。

大阪文化祭賞奨励賞　各受賞者の受賞理由

第１部門：伝統芸能・邦舞・邦楽

豊竹希太夫（とよたけ　のぞみだゆう）さん　「錦秋文楽公演『本朝廿四孝（ほんちょうにじゅうしこう）』【景勝上使（かげかつじょうし）の段（だん）】」の成果

「錦秋文楽公演『本朝廿四孝』【景勝上使の段】」における豊竹希太夫さんの浄瑠璃は、声がよく伸びて安定感があり、人物をよく把握して、語り分けにもめりはりがありました。今年度は新型コロナ感染症対策による厳しい状況で、公演も激減しましたが、その中での進境には著しいものがあり、今後のさらなる活躍が期待されます。

2002年文楽研修生を経て2004年豊竹英太夫（現・六代呂太夫）に入門、同年国立文楽劇場で初舞台。第39回（令和元年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞など受賞。

©国立文楽劇場

第2部門：現代演劇・大衆芸能

沢村さくらさん　「沢村さくら二十周年記念曲師の会」の成果

浪曲の曲師、沢村さくらさんが、入門二十周年記念の「曲師の会」を開催しました。さくらさんは東京で入門し、2005年以降は大阪で活動。この会では東西の浪曲師の三味線をつとめて関東節、関西節を見事に弾き分け、曲弾きや解説も交えて浪曲の魅力を存分に伝えました。巧みな技や企画力に加え、曲師の存在の重要性を示したことも合わせて評価されました。

山形県出身。2000年に沢村豊子に入門、同年浅草木馬亭で初舞台。2018年より「浪曲三味線ワークショップ」を主宰。第18回（2021年）上方の舞台裏方大賞受賞。

©小林正明

橋本匡市（はしもと　ただし）さん　オンライン配信を活用した演劇公演の企画上演

コロナ禍により多くの演劇公演が中止・延期を余儀なくされる中、企画主任を務める小劇場・ウイングフィールドでいち早く5月に配信プラットフォームを開設。この「仮想劇場」を用いた短編演劇祭も企画しました。表現の場を守ると共に、若手と映像系クリエイターを結ぶなど、出会いの機会も創出。劇場の在り方を模索しました。

近畿大学文芸学部芸術学科卒業。劇団「尼崎ロマンポルノ」、演劇ユニット「万博設計」で作・演出を担当。「若手演出家コンクール2019」優秀賞など受賞。

©井上信六

第３部門：洋舞・洋楽

環（たまき）バレエ団　「オータム・バレエ・コンサート」の成果

1964年に団を創設し、2019年大晦日に逝去した環佐希子さんによるモダンバレエ5作品を上演。追悼・顕彰にとどまらず、その時代を超える魅力を余すところなく見せました。他にサイトウマコトさんによるエネルギッシュな群舞と奇抜な発想が哀切を誘うコンテンポラリー作品、「くるみ割り人形」と、幅広い対応力を実証するレベルの高い公演でした。

環佐希子さんは11歳でバレエを始め、1963年にパリへ留学。団創設後はメルパルクホールなどで毎年公演を開催。奈良、神戸など関西一円に支部教室を持つ。

©古都栄二（テス大阪）

會田瑞樹（あいた　みずき）さん　「ヴィブラフォンソロリサイタル in OSAKA」の成果

関西の作曲家の新曲を集めた公演において、優れた企画力、確かなテクニックで魅了しました。相撲を音楽にした「相撲ノオト」など、ユーモラスな曲を披露し、楽譜も展示。作曲家らが会場で解説も行い、敬遠されがちな現代曲の数々を親しみやすく紹介することに成功しました。今後さらに充実した活動が期待されます。

2010年日本現代音楽協会・朝日新聞社主催「競楽IX」第2位入賞と同時にデビュー。これまでに300作品以上の新作初演を手がける。令和元年第10回JFC作曲賞入選。

日本万国博覧会記念基金は、今年創設50周年を迎えました。

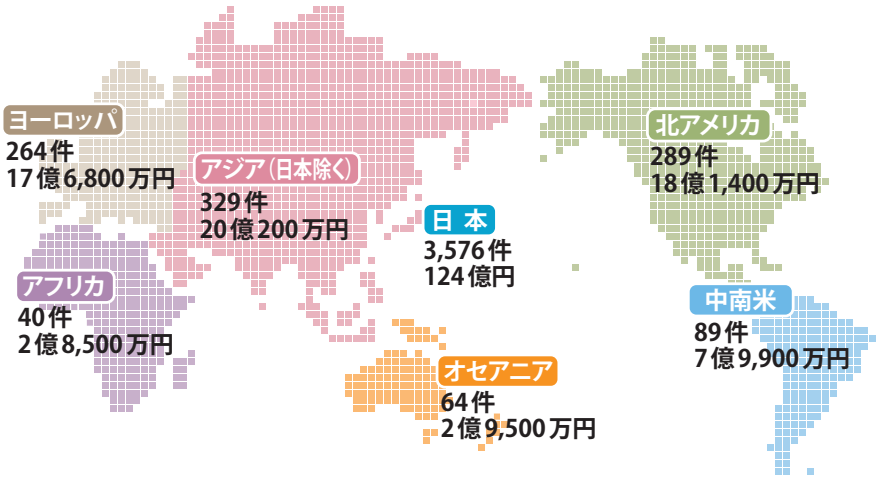
1970年に開催された日本万国博覧会の収益を基に、1971年9月に創設された日本万国博覧会記念基金は、今年50周年を迎えました。

その間に、日本と海外の国際相互理解を促進する活動などに対して、累計約4,600件、約193億円の助成を実施してきました。

50周年となる今年度は、複数年度助成事業や日本文化を研究する外国人留学生に対する奨学金給付制度を導入し、これからも世界の調和ある発展に貢献するために、助成事業を続けてまいります。

助成実績（1971年度～2021年度）

114の国及び地域に約4,600件、約193億円の助成を実施



50年の歩み

1971▶1980年

1971年に万博記念基金を創設し、国際文化交流活動や学術、教育などに関する国際的な活動に助成を開始しました。1976年には、オーストラリアの「カウラ日本庭園」の建設に助成。同庭園の整備・改修事業は1985年、1992年にも行われ、合計で6,003万円を助成しました。この10年間で、累計888件・約46億円の助成を行いました。

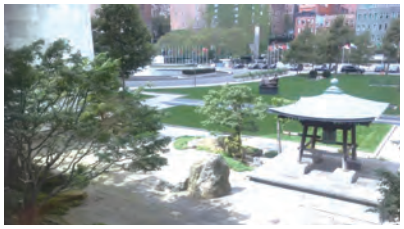
カウラ日本庭園

1981▶1990年

基金創設から20年を経て、助成は累計2,025件・約98億円に達しました。

1991▶2000年

日本美術技術博物館Manggha（ポーランド）の建設に1,558万円（1994年）、国連本部日本ピースベル庭園（アメリカ）の新築工事に2,000万円（1999年）を助成するなど、基金創設から30年を経て、助成は累計3,188件・約156億円に達しました。また、1995年度には年間最高額となる6億3,500万円の助成を行いました。


国連本部日本ピースベル庭園

2001▶2010年

ザンジバル武道館（タンザニア）の建設に500万円（2001年）、イグアス日本「匠」センター（パラグアイ）の改修に430万円（2008年）を助成するなど、基金創設から40年を経て、助成は累計4,078件・約183億円に達しました。

ザンジバル武道館

イグアス日本「匠」センター

2011▶2021年

2014年4月に関西・大阪21世紀協会が「日本万国博覧会記念基金事業」を承継。大阪万博（1970年）の理念と基金を、永く後世に伝えていくこととなりました。2017年にはオークリッジ国際友好の鐘 平和の鐘楼（アメリカ）の建設に595万円を助成するなど、基金創設から50年を経て、助成は累計、114の国や地域・機関に約4,600件・約193億円に達しました。

オークリッジ国際友好の鐘 平和の鐘楼

世界各国で助成金が活かされています

本号より、過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成金を活用して建設された海外の施設についてご紹介してまいります。

＜第1回＞
ポーランド共和国／日本美術技術博物館Manggha（マンガ館）

日本美術技術博物館Mangghaは、1920年にポーランドの美術品コレクターであるフェリクス・マンガ・ヤシェンスキ氏からクラクフ国立美術館に寄贈された15,000点にも及ぶ日本美術コレクションを基に1994年ポーランドクラクフに建設された国立の博物館です。

日本美術技術博物館Manggha（ポーランド　クラクフ）
Archives of the Manggha Museum, photo by Krzysztof Ingarden

当博物館は、若き日にマンガ氏のコレクションを鑑賞したポーランドの世界的映画監督であるアンジェイ・ワイダ氏が、「自分が少年時代に初めて日本の美術に触れた時の幸福感をポーランドの人々に味わってほしい」とマンガ氏のコレクションの常設展示美術館の建設を提唱し、1994年にクラクフ国立美術館の分館として設立されました。建築家の磯崎新氏が設計を手掛けています。この建設費用に対し、万博記念基金では1,588万円の助成を行っています。

2005年に日本美術技術博物館Mangghaは独立した国立の文化施設となり、2007年に博物館として認可されて現在に至ります。

現在も、日本の伝統美術品や現代アートの展示の他に、日本語教室、生け花展示、茶席などの様々なイベントが開催され、ポーランドと日本の文化の懸け橋として日本文化を紹介する唯一の国立の施設となっています。

館内の展示風景
Archives of the Manggha Museum, photo by Krzysztof Ingarden

万博記念基金では、日本美術技術博物館Mangghaで実施されたイベントにも助成をしてきました。

2018年度には、兵庫県龍野市で国際芸術祭を開催している龍野アートプロジェクトが当博物館で開催した「龍野アートプロジェクトinクラクフ」に対し、150万円の助成を行いました。

龍野アートプロジェクトinクラクフ（2018年度助成）

2019年度には、当博物館の主催事業として、日本ポーランド国交100周年記念事業「備前長船日本刀展覧会」に対して、重点助成事業として640万円を助成。広島県瀬戸内市の備前長船刀剣博物館から借り受けた日本刀（37口）の展覧会で、期間中に作刀・鍛錬実演、日本刀の歴史や武士道精神の講演会などを実施しました。

本年度はスピリット・オブ・ポーランド財団が当博物館で実施する、ポーランドと日本の女性芸術家の作品展示会「内なる力 ポーランドと日本の女性たち」を助成事業として採択しています。

備前長船日本刀展覧会（2019年度助成）

EXPO'70基金 2021年度助成金及び奨学金贈呈式

2021年7月28日／大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール

基金創設50周年を記念して 複数年度助成と奨学金給付事業を開始

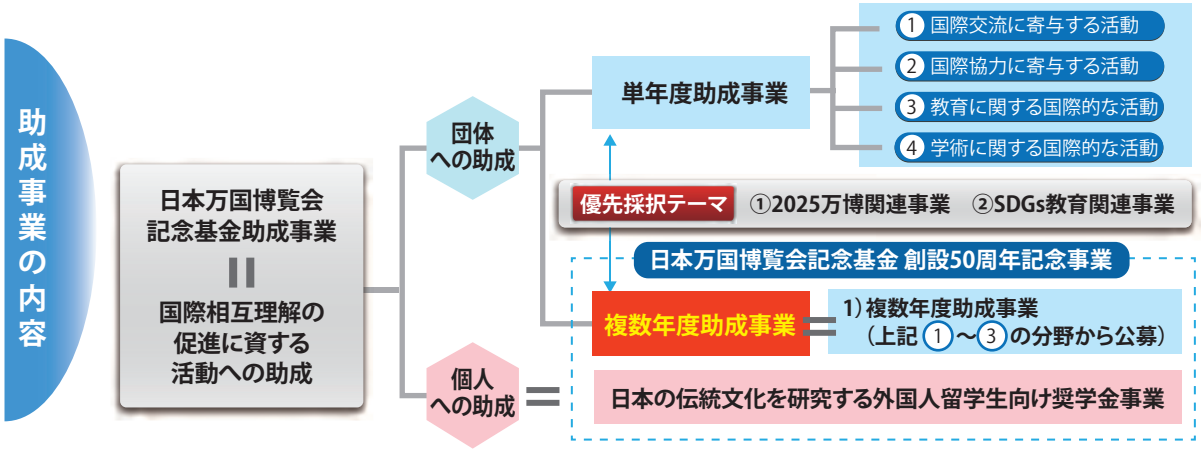
関西・大阪21世紀協会は、2021年度の万博記念基金助成事業として、国内外から申請された116件の中から40件を採択し、総額6,400万円の助成を決定しました。

また、基金創設50周年を記念して、今年度から二つの新たな取り組みを開始。一つ目は、以前から要望の多かった「複数年度の助成」の新設で、15件の申請の中から審査の結果、スペイン・バルセロナの漆芸文化普及協会の「日本との交流を通じた漆芸普及と文化財・世界遺産保護への取り組み」が第1号として採択されました。二つ目は、日本初の「日本の伝統文化を研究する外国人留学生（大学院修士課程）を対象とした奨学金給付事業」のスタートで、東京藝術大学、京都市立芸術大学、大阪大学、早稲田大学から推薦された5名に、奨学金が給付されることとなりました。

7月28日にその贈呈式が行われ、冒頭、当協会の﨑元利樹理事長は、「コロナ禍にあって活動しづらい状況ではありますが、助成金や奨学金を有効にご活用され、大いに成果を上げていただきたい」と挨拶。新型コロナウイルスの感染予防と拡散防止のため、二つの助成団体と3名の奨学生に代表して出席していただき、﨑元理事長から目録が手渡されました。その後、2019年度助成の団体による事例発表会と2022年度の募集説明会が行われました。

2021年度の申請と採択の内訳

	申　請		採　択	
国内外合計	116件	2億7,076万円	40件	6,400万円
国外事業者（内数）	（20件）	（5,851万円）	（8件）	（1,140万円）



2019年度助成団体の事例発表

特定非営利活動法人 Colorbath
「ネパールの子どもたちとのグローカル交流プログラム」

代表理事　吉川雄介氏

私たちは、「人づくり」としての教育事業と、途上国における雇用創出としてのソーシャルビジネス事業の二つを中心に活動を行っています。今回は、ネパールの子どもたちが徳島県でホームステイをし、日本の子どもたちや地域の人たちと一緒に注連縄づくりや藍染めなどを体験。ネパールの子どもたちは帰国後、「心は今も日本と繋がっている。この思い出を一生の宝物にします」と感想を寄せています。そうした交流は日本文化を海外に発信する機会にもなっています。私たちは「想いをカタチに、未来をつむぐ」というテーマを掲げ、子どもたちのピュアな想いを一つずつ形にし、その先により良い未来があると信じて活動していきたいと思っています。

特定非営利活動法人 ひとまちあーと
「たつのアートプロジェクト」

芸術監督　加須屋明子氏

「たつのアートプロジェクト」は、国際的に活躍するアーティストを招き、新たな視点の作品で幅広い層に芸術・文化の楽しさを感じてもらえるよう活動しています。2019年は日本とポーランドの国交樹立100周年を祝し、9月21～29日にかけて日波国際芸術祭「アニマ anima」をたつの市総合文化会館などで開催。ポーランドのデザイナーで作家のヨアンナ・ハヴロット氏を招いて着物にまつわるワークショップを開催したり、新進気鋭のアニメーション作家・宮嶋龍太郎氏のアニメーションを上映したりしました。また、龍野市出身の作曲家・薮田翔一氏が音楽監督を務めるコンサートを実施。芸術における anima（生命、魂）の源流を探りました。

2021年度奨学金給付事業

大阪万博の理念を世界に広げ 日本と外国の懸け橋になる人材の育成を目的とした 奨学金給付事業を開始します

70年大阪万博の理念を世界に広げ日本と外国の懸け橋となる人材の育成を目的とした「日本の伝統文化を研究する外国人留学生（大学院修士課程）を対象とした奨学金給付事業」を開始します。

グローバル社会の進展に伴い、「人類の進歩と調和」をテーマに開催した1970年の日本万国博覧会の理念が世界中で求められています。「日本万国博開催の意図」には、「世界に様々な文明が多元的に共存することを、理解と寛容の精神によって認め、それらの多様性の調和の中にこそ進歩が望まれなければならない…」と、万博記念基金助成事業が最も大切に継承している理念である「調和的発展の精神」が記されています。

万博記念基金では、この理念実現のために世界の未来を担う次世代人材の育成が重要であると考え、外部有識者のご意見を踏まえて、「日本の伝統文化を研究する外国人留学生を対象にした奨学金給付制度」を開始しました。

また、奨学生には、年に2回程度研修の場を設け、日本の伝統文化を学ぶ機会を提供するとともに、奨学生同士や当協会との交流を深め、将来「日本と外国の懸け橋」となる人材の育成に努めてまいります。

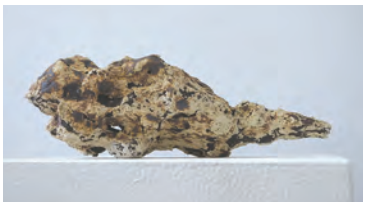
奨学生選考の経緯

2021年3月　公募を開始
5月　大学での学内選考を経て、4大学から5名の申請を受付
6月　外部審査委員による審査
7月　5名の外国人留学生へ奨学金の給付を決定

奨学生の皆さんの声

鄭 天雨（テイ テンウ）さん（中国）
京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻（陶磁器）2回生

将来、他分野とのコラボをしたり、スタジオと多機能空間や日中の職人紹介ができるHPを作ったりして、日中の芸術交流の懸け橋になれば幸いです。



鄭 天雨さんの作品

Lam Joyce Tsin Yun（ラム ジョイス セン キン）さん（カナダ）
東京藝術大学大学院映像研究学科メディア映像専攻2回生

人生において様々なことを自由に選択できるように、「家族」の研究を深めながら満足のいく作品を制作したいと思います。気を引き締めて精進します。

「家族に関する考察のトリロジー」より

解 桐（カイ トウ）さん（中国）
東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻（尺八）1回生

日本の尺八文化を、中国だけでなく世界に広げるように全力を尽くしたいと思います。この度、奨学金給付により、私の研究を支援していただき、心から感謝しております。

楊 櫓（ヨウ ロ）さん（中国）
大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻（漢詩研究）1回生

将来、日本古典文学の分野で貢献できる研究者を目指しています。また、日本の伝統文化の魅力を国際社会に発信するために尽力したいです。

王 群（オウ グン）さん（中国）
早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学専攻1回生

私には、将来、伝統的建造物保存に関わる仕事に就くという目標があります。今後もご支援いただいたことへの感謝を忘れず、文化財事業に貢献する方向に精進していきたいと思います。

多聞寺の調査をする王 群さん（右）

コロナ禍の中、ASKは「アーティストファースト」で支援しています。

2020年度助成活動報告

寺田千代乃上方落語若手噺家支援寄金助成

第6回上方落語若手噺家グランプリ2020

アーツサポート関西は、2015年より、「寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金」として設けられた500万円のファンドから、天満天神繁昌亭で開催される「上方落語若手噺家グランプリ」に対し毎年50万円を助成しています。このグランプリは、（公財）上方落語協会の主催により上方落語の若手噺家を対象に設けられたもので、決勝戦のチケットはいつも販売とほぼ同時に完売状態。繁昌亭の中でも屈指の人気を誇ります。若手の登竜門として、長い伝統を持つ他の賞と肩をならべる形で定着し、上方の若い噺家たちの大きな目標となっています。

2020年はその第6回目にあたります。グランプリは毎年、4月に4回の予選と6月に決勝戦を行いますが、2020年は新型コロナの影響により、開催自体が危ぶまれる中、12月に予選の時期をずらし、2021年2月にグランプリ決勝戦を行いました。12月に行われた予選には、参加資格を持つ36人の若手噺家がエントリー。9名ずつが4回の予選に分かれて出場し、予選上位2名と予選4回で最高点の第3位1名が決勝戦に出場しました。

決勝戦には予選を勝ち抜いた笑福亭べ瓶さん、桂文五郎さん、桂華紋さん、笑福亭笑利さん、露の紫さん、桂九ノ一さん、林家染八さん、桂三四郎さん、桂三実さんの9名が出場。いずれも練り上げられた渾身のネタで会場を爆笑の渦に巻き込みました。審査の結果、第1回目から6回連続で決勝戦を戦ってきた桂三四郎さんが、那須与一の古典的な噺を絶妙にアレンジした創作落語「扇の的」で見事グランプリを射止めました。三四郎さんは、数年前から拠点を東京に移すも、このグランプリに強い意欲で挑み続け、その熱い想いが伝わってくる圧巻の落語でした。準優勝は同じ桂文枝一門の桂三実さんとなり、同門でのワン・ツー・フィニッシュを飾りました。

上方落語協会の笑福亭仁智会長（右）より賞状を受け取る桂三四郎さん（左）

企画協力

北御堂花まつりコンサート

新型コロナの影響により発表の場を失った関西の若い芸術家たちを支援しようと、大阪ロータリークラブ社会奉仕委員会の呼びかけで、2021年4月8日、大阪御堂筋にある本願寺津村別院「北御堂」の本堂にて、関西の若手弦楽器奏者を集めた演奏会「スーパークラシックアンサンブル花まつりコンサート」が開催されました。この演奏会にアーツサポート関西（ASK）は、企画協力として関わりました。

演奏を行った「スーパークラシックアンサンブル」は、指揮者の佐渡裕さんが主宰する「スーパーキッズオーケストラ」のOG・OBを中心に、新たに結成された23名のアンサンブルで、メンバーはいずれも世界を目指す精鋭ぞろい。お釈迦様の誕生日である4月8日の花まつりにふさわしい、生命力に満ち溢れた世界水準の音楽が、コロナ禍の苦境でがんばるすべての人々へのエールとして本堂いっぱいに響きました。今回の企画の取りまとめ役となったコンサートマスターの堀江恵太さんは、昨年ASKの助成対象者として活躍され、本号の表紙でも堀江トリオの一員としてご登場いただいています。

北御堂本堂で演奏するスーパークラシックアンサンブルメンバー

聴衆には、北御堂の特別のはからいで、医療従事者の方々や、大阪市社会福祉協議会の協力により普段クラシックの演奏会に足を運べない障害のある方々など100名ほどが招待されました。バッハの「G線上のアリア」やモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」などの良く知られた曲から、R.シュトラウスの「メタモルフォーゼン」といった生命の尊さをテーマとした曲などに、みなさん静かに聴き入っている姿がとても印象的でした。

カルティエ 心斎橋ブティック・コンサート

大阪心斎橋に5月に移転リニューアルオープンしたカルティエ 心斎橋ブティックにおいて、2021年7月31日、アーツサポート関西（ASK）の協力のもと、コンサートが開催されました。

このコンサートはコロナ禍の中、大阪の若いアーティストに発表の場を提供したいというカルティエの提案で実現したもので、昨年ASKが助成したヴァイオリニストの谷本沙綾さんと、チェリストの松蔭ひかりさんのお二人に登場いただきました。

谷本さんと松蔭さんは、相愛高校から2019年相愛大学に特別奨学生として進学した同期生で、2018年、相愛高校3年時に国内音楽コンクールの最高峰として知られる第72回全国学生音楽コンクールでヴァイオリンとチェロのそれぞれで第1位を獲得。同じ学校の同学年での同時1位はお二人が初めての快挙でした。

谷本沙綾さん（左）と松蔭ひかりさん（右）

フランス人デザイナーの手による、色や素材など細部に至るまでこだわりぬいた美しい空間の中で、谷本さんと松蔭さんはカルティエのジュエリーを身に着け、透明感のある凛とした響きの見事なデュエットを披露し、集まった人々を魅了しました。

ASKでは今後ともアーティストの活動の場の拡大につながる支援を行っていきたいと考えています。

2021年度助成活動報告

吉田 玉翔さん（文楽人形遣い）

伝統芸能（一般助成）

「文楽夢想　継承伝」の開催

若手の技芸員たちに経験を積ませることを目的に、若手とベテランが通常の枠を超えた配役で演じる文楽初の試み「文楽夢想　継承伝」が、文楽人形遣いの吉田玉翔さんを中心とする文楽技芸員たちの手によって企画され、2021年8月7日、国立文楽劇場で開催されました。

この公演は、太夫および三味線で若手がその曲の中心となる「シン」をつとめ、先輩がサポート役のスソに回り、人形遣いでは、師匠と弟子、そして親と子の共演となるなど、通常では見られない配役で、まさに若手がベテランに挑む緊張感ただよう舞台となりました。

途中、今年7月に人間国宝となった桐竹勘十郎さんとベテランの吉田玉男さんのお二人に関西・大阪21世紀協会の﨑元利樹理事長が加わり、この取り組みの意義を語る場面もありました。

演目は、「二人三番叟」で、桐竹勘十郎さんと弟子の勘介さんがぴったりと息のあった踊りを披露し、「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」では母と娘を実の親子である吉田一輔さんと蓑悠さんが親子の別れを情感たっぷりに描き、最後の「五条橋」では、吉田玉男さんが牛若丸を、弟子の玉路さんが弁慶を演じ、師弟の連携で五条橋での弁慶・牛若丸の激しい戦いの場を見事に演じ切りました。

桐竹勘十郎さん（右）と桐竹勘介さん（左）

この公演を企画した吉田玉翔さんは、今後もぜひこの取り組みを続けていき、若い技芸員たちの一つの目標としていきたいと語っていました。

HMPシアターカンパニー

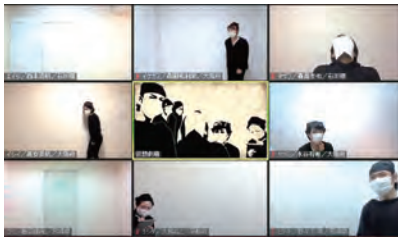
舞台芸術（一般助成）

「仮想劇場　夜、ナク、鳥」オンライン配信公演

演劇の可能性に真摯に向き合いながら、大阪の現代演劇界の推進役のような役割を果たしてきたHMPシアターカンパニー。新型コロナによって劇場での上演ができなくなった状況において、彼らはあらためて演劇と向き合い、オンライン会議システムを利用した独自の演劇形態を作り出し、2021年7月、故・大竹野正典作「夜、ナク、鳥」をオンライン配信によって上演しました。

上演はZoomを利用して行われ、それぞれ個室に分かれて演技をする俳優の動きをデジタル処理で統合させて、ひとつの演劇として見せる趣向です。人物は強いコントラストが効いたモノトーンのイメージで描き出されます。

ストーリーは、人の命を救うはずの看護師たちが、非道な悪巧みを意図する友人にそそのかされて、夫たちの保険金殺人に手を染めていくというスリリングな内容。生と死、友情と裏切りというさまざまな対立軸が絡み合いながら進行し、思わずストーリーに引き込まれていきます。


「夜、ナク、鳥」の1シーン

劇団を主宰する演出家の笠井友仁さんは、演劇における観客の重要性を主張します。それが単なる演劇を記録した映像の配信ではない、リアルタイムで鑑賞される今回の上演方法につながりました。

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021

人類・いのち・万博

1970から2025に向けて

大阪万博(EXPO'70)が生み出したレガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働してシンポジウムを開催します。「人類の進歩と調和」をテーマとしたEXPO'70から、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしたEXPO 2025への展開をふまえ、「人類・いのち・万博」をテーマに、EXPO 2025、さらにその先の未来について関西の知をリードする研究者が一堂に会して議論します。

主催:公益財団法人千里文化財団
共催:国立民族学博物館、大阪府(予定)、公益財団法人関西・大阪21世紀協会
後援:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

西尾 章治郎氏
大阪大学総長

ウスビ・サコ氏
京都精華大学学長

山極 壽一氏
総合地球環境学研究所所長

井上 章一氏
国際日本文化研究センター所長

吉田 憲司氏
国立民族学博物館長

本シンポジウムでの提言

- **すべての「いのち」が輝く社会実現への共創活動**(西尾 章治郎氏)
- **万博におけるアフリカ表象**(ウスビ・サコ氏)
- **人類の進化といのちのつながり**(山極 壽一氏)
- **オリンピックと万国博**(井上 章一氏)

＊提言発表後に全員でパネルディスカッションを実施

開催日:2021年11月23日(火・祝) 13:00〜16:40(12:30開場)
会　場: 国立民族学博物館 本館
みんぱくインテリジェントホール(講堂)
・大阪モノレール「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
・バス 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分

参加無料(会場でのご参加には展示観覧券が必要です)

＊新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ、イベントを変更・中止する場合があります。
最新情報は千里文化財団ホームページでご確認ください。

参加方法:下記①または②よりお選びください
(要事前申込・先着順)
①会場でのご参加(定員160名)
②オンライン(ライブ配信)でのご参加
受付期間:2021年10月1日(金)〜11月16日(火)

申し込み/お問い合わせ先
公益財団法人 千里文化財団
TEL 06-6877-8893
(平日9:00〜17:00)
https://www.senri-f.or.jp/

スマホを使って文化芸術支援にご協力を!

2021年3月30日より、株式会社みずほ銀行が提供し、全国90以上の金融機関が参画するスマホ送金・決済アプリ「J-Coin Pay」内で実施している「ぽちっと募金」から、関西・大阪21世紀協会にご寄付いただくことが可能となりました。

当協会は、コロナ禍で経済的な事情を抱える若手アーティストへの支援や活動の場の提供を通じて個と個を結びつけ、さらには個と企業を繋ぎ合わせる取り組みを行っています。こうした取り組みにご賛同いただける方は、「ぽちっと募金」で500円からお気持ちの金額で当協会に寄付していただくことができます。ご寄付は、アーティストへの支援を拡充するための費用として活用させていただきます。

皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

詳しくは関西・大阪21世紀協会ホームページへ
http://www.osaka21.or.jp

「ぽちっと募金」とは
J-Coin Pay(店頭での支払い、送金、入出金をスマホで行えるアプリ)を利用して、復興支援や国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ振興などの支援を行う団体に対し、少額から募金できるサービスです。
(J-Coin Payについては▶https://j-coin.jp/)

関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会　費(何口からでも結構です)
■法人会員1口につき年会費10万円
■個人会員1口につき年会費1万円

特　典
1.協会が発行する刊行物の配布
2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会　総務部

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会
ホームページ https://www.osaka21.or.jp

発　行　日／令和3年(2021)9月24日
編集・発行／公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル29階 TEL.(06)7507-2001 FAX.(06)7507-5945
発　行　人／﨑元利樹　編集協力／株式会社インサイト　印刷／東洋紙業株式会社